

河川砂防技術研究開発公募 流域計画・流域管理課題分野
平成28年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価2年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	産官学民協働の水害に強い街づくりのためのリスクコミュニケーション手法の構築	山梨大学 大学院 鈴木 猛康	b	住民との協働による防災計画づくりなど、研究は概ね順調に実施されている。 タイムライン自体の分析を実施すること、及びケーススタディにとどまらず、汎用化の方法論が確立するような方向性を示すことに留意し、研究を進展させたい。
概要	本研究は、リニア新駅建設予定地で水害常襲地帯である甲府市大里地区(世帯数:約3,300、人口:約7,200人)を対象として、産官学民協働による水害に強い街づくりにBECAUSEモデルに基づいたリスクコミュニケーション手法を開発・適用し、その有効性を検証する。産官学民による「コミュニティ防災の会」を設立し、会の下に組織する地区防災推進、地区防災計画、災害に強い街づくりの各作業部会の活動を促進することによって、産学官民の様々なステークホルダーが地域の街づくりのために協働できる場を創出する。また、各作業部会の活動の推進支援、リスクコミュニケーションに有効な技術や手法等のツールを開発する。			
テーマ	気候変化下における最大クラス洪水推定と水害リスク変容評価	金沢大学 谷口 健司	a	数値気象シミュレーションや氾濫解析が着実に進められていることから、引き続き研究を推進する。
概要	本研究では、下流域に小松市街地を有し、平成25年に観測開始以来最高水位を記録した石川県内の一級河川である梯川流域を対象とし、温暖化予測結果及び数値気象モデルを用いて既往洪水をもたらした気象事例の将来変化シミュレーションを行い、それに基づく将来の最大クラス洪水と浸水氾濫域の変化を推定する。さらに、将来の浸水氾濫域を考慮した治水メニューの検討とその実施に伴うリスク変化や経済的影響等の評価を行う。			
テーマ	不確実性下における高潮浸水リスク適応政策の経済評価	熊本大学 藤見 俊夫	a	高潮浸水の適応政策における経済評価の推定が着実に進められていることから、引き続き研究を推進する。
概要	本研究では、高潮リスク予測における不確実性を考慮した適応政策の経済評価手法の構築を目指す。さらに、そうした不確実性が適応政策の評価額に及ぼす影響を「不確実性プレミアム」として試算する。本年度は、高潮氾濫シミュレーションを温暖化後の気候条件のもとで実施する。さらに、不確実性下における高潮リスク削減の経済価値を試算するために、Webアンケートの本調査を実施し、回答者の直面する高潮リスクおよびその不確実性の程度に応じた高潮リスク削減価値をContractionモデルに基づき推定する。			

評価の凡例

- a: 研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
- b: 指摘事項に留意の上、引き続き研究を推進する。(指摘事項あり)
- c: 指摘事項を踏まえ研究計画を修正の上、研究を推進する。(指摘事項、条件付き)
- d: 現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難であるため、研究を終了する。